



Merci



地域の子どもたちや、高齢者らに楽しさと驚きを届けています。

「手品を通して広めよう！人の輪、そして地域の輪」

## 学生支援プロジェクト



### KEYWORD

#### 【学生支援プロジェクト】

学生の自主性、積極性、創造性等を高め、学生生活の活性・充実に資するとともに、大学教育の改革・改善・活性化を図ることを目的に、魅力的・独創的なプロジェクト事業に対し、学生支援プロジェクト経費（特定施策推進経費）を配分するものです。

最初は「自分がやっていること」にしか目が  
いかなかった部員が、次第に「観客」を意識できる  
ようになっていく。自分の成長だけでなく、後輩  
の変化を実感する嬉しさもまた、先輩が後輩に  
指導を行うメルシーの良さです。子どもたちとの  
目線の合わせ方や、保護者との話し方…そんな  
小さな気付きを積み重ね、人を喜ばせながら彼ら  
は自分のプレゼン力にも磨きをかけていきます。  
高校生の時、今の大学生活を想像できましたか？  
末澤さんと横谷さんに尋ねてみました。  
「私は大学に入ったらこんなことができる、と  
いう展望がありました。勝ち負けなどは関係なく、  
みんなを楽しませることができると、そういう今の  
自分が好きだと思えます」  
「僕は高校生の時、大学に入ったら部活くらい  
やろうかな…くらいの気持ちで、今こうなって  
いるなんて考えもしませんでした。『やつぱり  
大学生って視野が広い、何でもできるんだ！』  
と実感しましたね」  
自分たちで企画し、社会の中へ飛び込む。そんな  
大学生ならではの行動力で、これからもメルシー  
の笑顔の輪は広がっていきます。



# 大学生とともにもに

教職員、学生、サークルのすべてで  
元気な香大を作るんです





KEYWORD

香川大学  
サークル連合  
H.O.P. (ホップ)

文系・体育系の垣根を越えた  
全体活動が行えるよう組織さ  
れた団体。現在は大学祭の企  
画・運営や、高松まつりに出  
場する「香川大学連」のダンス  
の打ち合わせ、高松市常磐町  
商店街にある香川大学ミッド・  
プラザの活用など、様々な活  
動をサークルの各団体ととも  
に進めている。

香川大学  
サークル連合

H.O.P.  
ホップ

香

川大学には文系・体育系合  
せて70サークルが活動して  
います。それぞれの団体は香川大学文化

サークル連合(文サ連)と体育サークル  
連合(体サ連)に属していましたが、  
今年3月、その2つの団体が1つに  
なった新しい組織が誕生しました。

その名も「香川大学サークル連合H.  
O.P.(ホップ)」。香川大学に歴史を  
残す団体になろう、という目標を込めて、  
ヒストリー・オブ・パーティの頭文字  
から名付けられたこの団体は、サークル  
全体の意見を取りまとめ、大学と交渉  
を行ういわば「サークルの生徒会」です。  
裏千家茶道部の部長であり文サ連の  
委員長だった久保孝彰さん(教育3年)  
を代表に、H.O.P.がまず行ったのが、  
新入生をサークルに勧誘する4月の  
「新歓祭」。それまで各サークルが小  
規模に行っていた勧誘やピラ配りをま  
とめ、入学式のあとにミスコンやスタ  
ンプラリー、ビンゴ大会などのイベン

も盛り込んだこの企画は、6学部の新  
入生と公認・非公認サークルのほとん  
どが参加して大成功をおさめました。

この成功をうけてH.O.P.はさらに  
「大学との協力」「学生の信頼回復」を  
テーマとし、大学内外のイベント企画や  
学内の様々な問題に取り組みうとして  
います。

「大学で「学生が知らない情報」という  
のは意外と多い。たとえばピラ配りの  
仕方にも規定がありますが、そうとは  
知らず違反をして「学生はルールを守  
らない」と誤解されることがある。  
我々はそのルールを告知し、認識して  
もらった上で「破るとどうなるのか?」  
「ルールは変える必要があるか?」など  
の話し合いも行おうとしているんです」

サークル間の話し合いを団体として  
まとめ、学生生活支援グループや学長、  
副学長との話し合いの場に持っていく。  
逆に大学側からの問題提起をサークル  
で話し合う。このような相互の関係を

作ること、風通しが良くなり、様々な  
企画もしやすくなると久保さんたちは  
考えています。

「最初は3年生から始まった活動に  
「私たちも一緒に」と2年生が合流して  
くれ、さらに1年生が「自分たちも何か  
したい」と集まってくれた。高校生まで  
は制約の中で活動しますが、大学生は  
その制約も自分で作ることができる。  
自分たちでその制約をちゃんと守れる  
ところを見せられれば、「今の学生も  
やるじゃないか!」と信頼され、活動  
もしやすくなる。その循環で香川大学  
をもっと元気にしたい。香川大学はず  
ごいところだ、あそこにはH.O.P.  
があるぞ!と言ってもらえるくらいに  
なりたいですね」と久保さん。H.O.P.  
と香川大学の歴史は、現在進行形で発  
展中です!



高松常磐町商店街に誕生した香川大学ミッド・プラザ。地域活性化の一旦も担います。



新入生をサークルに勧誘する4月の「新歓祭」を大成功に満ちました。

代表  
久保孝彰

PROFILE

くぼ たかあき  
教育学部3年





**プ** リクラのようにリラックスモードの表情で撮影された学生の写真に、「タイのスープはスパイシーですわよん」「ロリコンどもには気をつけて下さい」など、いつもどおりの言葉が並ぶ。これは学生生活支援のための冊子「カダイ」創刊号の誌面。この時は香川大学祭のスナップ特集だったので、学生生活のサポートという枠すら超えた自由さで直感的に作られていて、だからこそ見ていて楽しい気分になれます。誌面から「香川大学って楽しい！」という声が聞こえてきそうです。

こんな作り方で香川大学の楽しさを伝えているのが、学生だけで編成された制作集団「チームKU」（香川大学学生広報企画委員会）。昨年「学生向けの広報誌を学生が作ったらどうだろう」という話が学内で持ち上がった時に、ゼミなどを通して話を聞き、学部を問わず興味がある学生が自主的に集まってきて生まれました。主な活動メンバーは9人

で、うち男子は1名。初代リーダーは経済学部4年生の田中博子さんです。「私、香川大学も香川県も大好きなんで、この話を聞いた時にすぐ参加しました。この楽しさをみんなに伝えたいと思って誌面を作っています」。どうやらリーダーのこの気持ちが、誌面作りにも反映されているみたいです。ところが田中さんは「入学当時は香川大学のこと、好きじゃなかったんです。第一志望の大学ではなかったし、私は津山市出身なんですけど、香川はもっと不便な場所だと思っていました」といいます。そんなネガティブな気持ちを払拭したのが、大学の友だちや先生、職員の人、そして香川県の人たちとの交流。「学校の人はみんなすごく親切で、あたたかくて、すぐに大学が大好きになりました。アパートの近所のひとも「おかえり」とか、いつも声をかけてくれるんですよ。それに、高松は思ったよりぜんぜん都会で住みやすいですよね」。はじめは誤解して

いた大学と香川のこと。だからこそ、本当の楽しさをみんなに伝えたいという気持ち強いのもかもしれません。2号では179人に聞いたアンケート結果をもとに、「カダイ生おススメの店特集」を行った「カダイ」は、現在3号を制作中。今度はファッション系雑誌では定番のファッションスナップを、香川大学のキャンパスの中で行う予定です。ランチタイムを狙って食堂に張り付き、おしゃれな学生を捜しているチームKUのメンバー。みんな冊子作りが大好きで、忙しい中でも積極的に活動しているそうですが、唯一の悩みが後継者問題。「メンバーのほとんどが4年生で、3人しか後継者がいないんですよ」と田中さん。チームKUでは新メンバーを大募集しています。「制作費は学校から出ます。それにはリサーチ代も含まれていて、カフェにリサーチに行くというのもアリです(笑)。興味がある人、ぜひ連絡を！」

**新メンバー募集中!!**

香川のこと、香川大学のことを、もっと知りたい方、もっと広めたい方、楽しいことが好きって動機でも大丈夫。いっしょに「カダイ。」をつくってみませんか。

**チームKU** 連絡先:087-832-1161





香川大学  
が大好き



team  
**KU**

ちーむくう